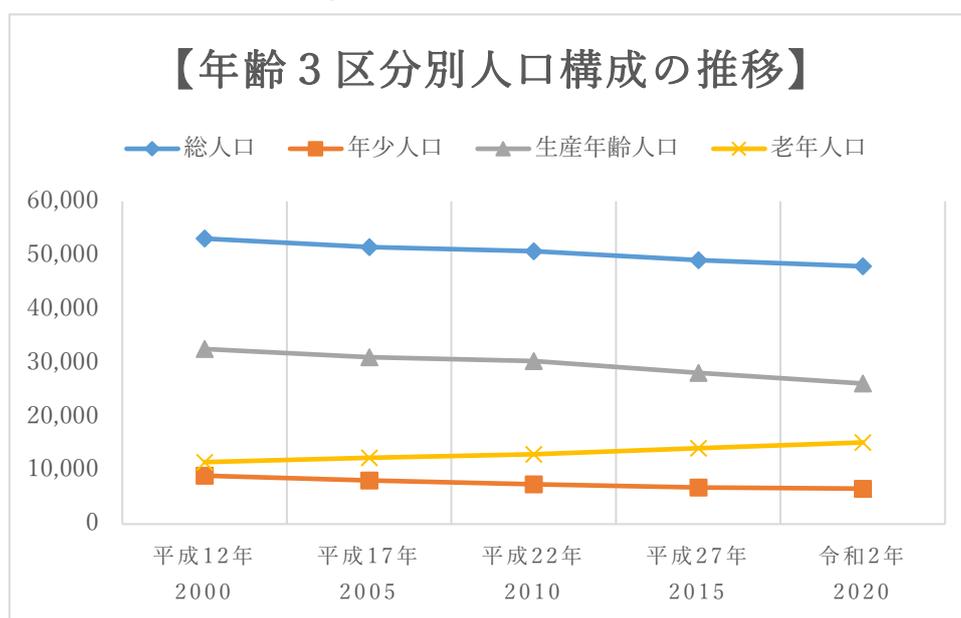


第2章 武雄市の現状

1 人口の推移

武雄市の人口は減少傾向にあり、平成12年の53,068人から令和2年には47,914人となり5,154人減少しました。

年齢3区分別に人口構成比の推移をみると、年少人口の割合（0～14歳）と生産年齢人口の割合（15～64歳）は年々減少している一方、老年人口の割合（65歳以上）は増加しており、本市においても少子高齢化が進行していることがうかがえます。令和2年には、年少人口の割合13.8%、老年人口の割合31.7%で、その差は年々大きくなっています。



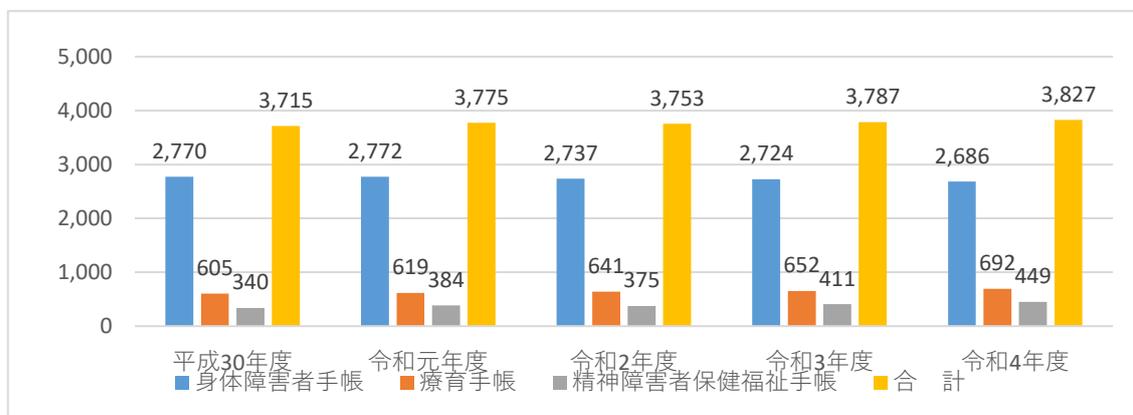
(単位：人)

	平成12年 2000	平成17年 2005	平成22年 2010	平成27年 2015	令和2年 2020
総人口	53,068	51,497	50,699	49,062	47,914
年少人口 (0歳～14歳)	9,003 17.0%	8,099 15.7%	7,422 14.6%	6,795 13.8%	6,597 13.8%
生産年齢人口 (15歳から64歳)	32,543 61.3%	31,039 60.3%	30,297 59.8%	28,130 57.3%	26,138 54.5%
老年人口 (65歳以上)	11,522 21.7%	12,359 24.0%	12,980 25.6%	14,137 28.9%	15,179 31.7%

※資料：国勢調査

2 障害者手帳所持者数の推移

本市における令和4年度末現在の各障害者手帳の所持者数は、身体障害者手帳が2,686人、療育手帳が692人、精神障害者保健福祉手帳が449人となっており、手帳所持者総数は3,827人となっています。また、総人口（令和4年度末：47,502人）に占める手帳所持者総数の割合は8.1%となっています。（単位：人）



(単位：人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
身体障害者手帳	2,770	2,772	2,737	2,724	2,686
療育手帳	605	619	641	652	692
精神障害者保健福祉手帳	340	384	375	411	449
合計	3,715	3,775	3,753	3,787	3,827
総人口（年度末）	48,926	48,629	48,390	47,951	47,502
総人口に占める割合（%）	7.6	7.8	7.8	7.9	8.1

※資料：市福祉課（毎年度末）

※複数の手帳を併せ持つ人がいるため、手帳所持者数の合計は障がいのある人の実数とはなりません。

(1) 身体障害者手帳所持者の推移

本市の身体障害者手帳所持者数は、わずかに減少の傾向で推移しており、県内においても減少傾向となっています。令和4年度末現在2,686人で、総人口に対して5.7%となっています。また、重度障害者（1・2級）は1,022人で、全体の38.0%を占めています。

(単位：人)

等級	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1・2級	952	1,053	1,043	1,027	1,022
3～6級	1,818	1,719	1,694	1,697	1,664
合計	2,770	2,772	2,737	2,724	2,686
総人口に占める割合（%）	5.7	5.7	5.7	5.7	5.7

(2) 療育手帳所持者数の推移

本市の療育手帳所持者数は増加傾向にあり、令和4年度末現在692人で、総人口に対して1.5%となっています。障害程度別に見ると、重度のA判定よりも軽度のB判定の方が多く、全体の67.9%を占めています。

(単位:人)

障害程度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
A判定	200	200	201	196	222
B判定	405	419	440	456	470
合計	605	619	641	652	692
総人口に占める割合(%)	1.2	1.3	1.3	1.4	1.5

(3) 精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

本市の精神障害者保健福祉手帳所持者数は、令和2年度に減ってはいるもののゆるやかに増加しています。令和4年度末現在449人で、総人口に対して0.9%となっています。等級別に見ると、2級が最も多く、全体の65.9%を占めています。

また、自立支援医療給付受給者数(精神通院)についても、ゆるやかな増加傾向にあります。

(単位:人)

等級	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1級	24	32	29	45	48
2級	239	262	259	270	296
3級	77	90	87	96	105
合計	340	384	375	411	449
総人口に占める割合(%)	0.7	0.8	0.8	0.9	0.9
(参考)					
自立支援医療(精神通院)給付受給者	648	676	763	720	722

3 相談の状況

平成31年4月より障がい児支援の強化として、「こども発達支援室」を設置し、相談体制の充実を図りました。その結果、障がい児の利用者が令和元年、令和2年度は大幅に増加しています。

(単位:人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
相談支援利用者数	381	565	816	681	777
障がい者(18歳以上)	351	404	426	386	415
障がい児(18歳未満)	30	161	390	295	362
相談件数(件)	5,974	8,380	9,381	6,699	9,882

※資料：市福祉課（毎年度末）

4 障がい福祉サービスの状況

障がい者の自立を支援する障がい福祉サービスの介護給付費等は年々増加しており、令和4年度末で14億3,911万円となっており、平成30年度末と比較すると21%の伸び率となっています。

また、障がい児の通所支援（療育訓練等）に対する給付費も、令和4年度末で2億5,432万円となっており、平成30年度と比較すると50%の伸び率となっています。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
介護給付費等給付費 (円)	11億9,011万	11億4,897万	12億9,546万	13億6,171万	14億3,911万
支給決定者数(人)	560	558	543	569	574
障がい児通所支援給付費 (円)	1億6,982万	1億7,788万	2億806万	2億4,170万	2億5,432万
支給決定者数(人)	188	209	222	241	246

※資料：市福祉課（毎年度末）

5 アンケート結果に見る障がい者の現状とニーズ

<アンケート調査の実施状況>

今回の調査では、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の所持者の方、1,500人に調査票を配布し、675人の方から回答をいただきました。

- ・調査方法：郵送による配布・回収
- ・調査実施期間：令和4（2022）年12月～令和5（2023）年1月

（単位：人）

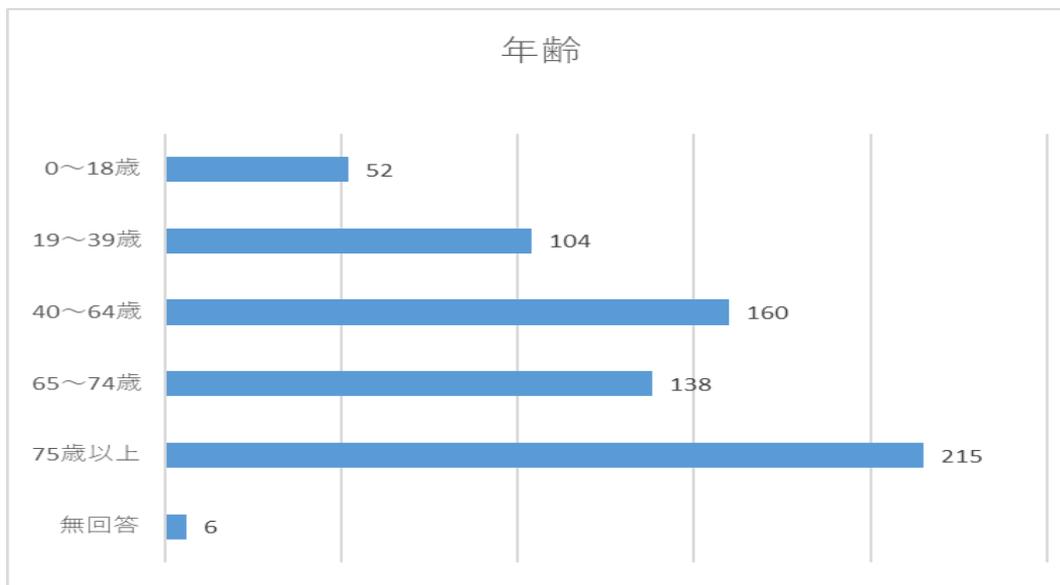
	手帳所持者数	※ ¹ 配布数	回収数	回答率
身体障がい者	2,724	800	675	45.0%
知的障がい者	652	400		
精神障がい者	411	300		
合計	3,787	1,500		

※¹ 配布数については、各障害種別の方から多くの回答を得るため、知的障がい者と精神障がい者の配布割合を多くしています。

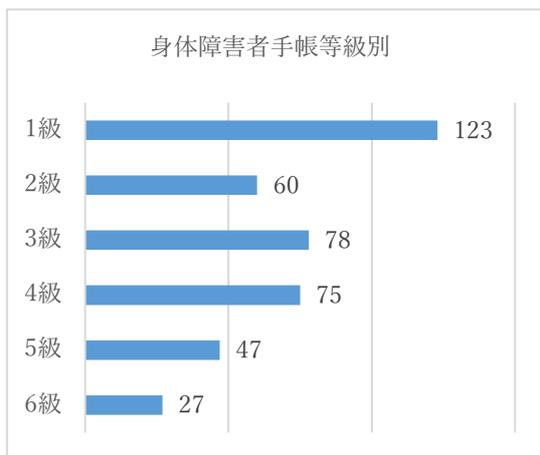
<基本事項について>

① 年齢

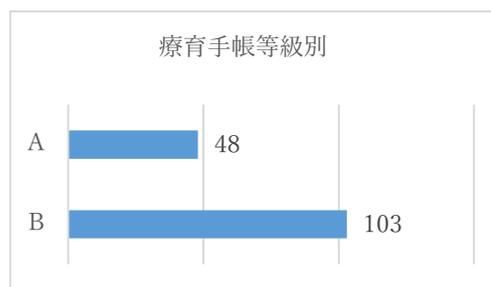
（単位：人）



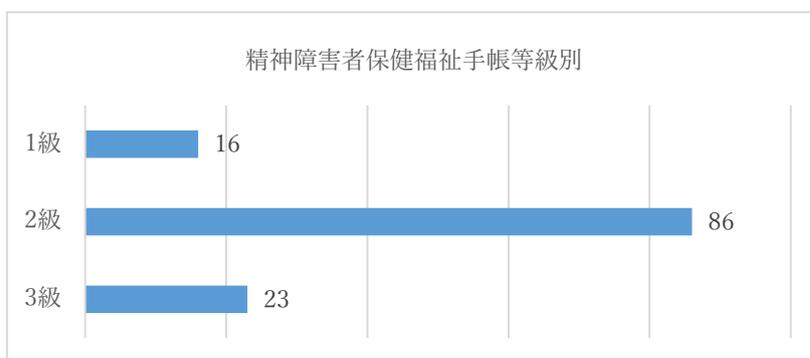
② 身体障がい者 (単位:人)



③ 知的障がい者 (単位:人)



④ 精神障がい者 (単位:人)

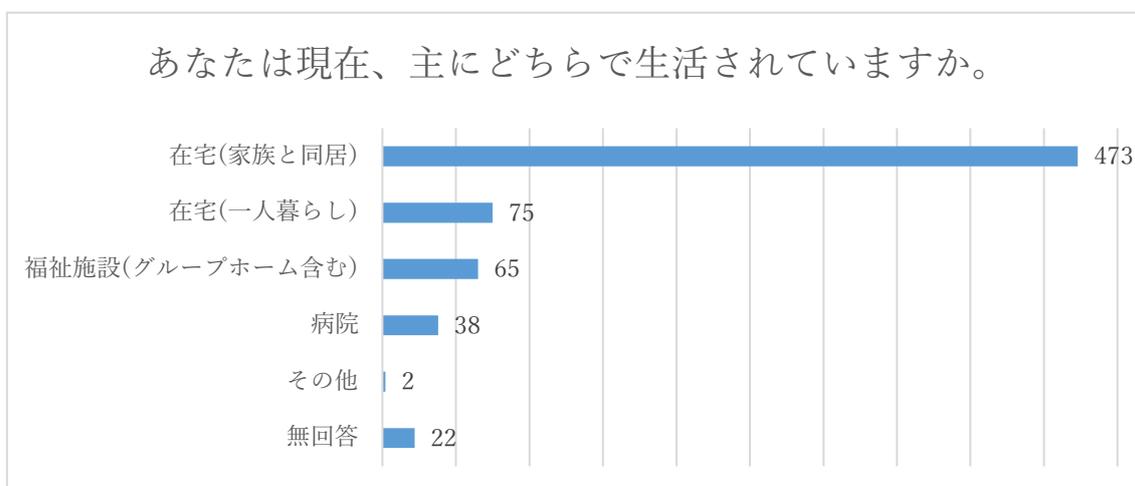


※675人の回答のうち46人が障害者手帳について無回答でした。

(1) 現在、主にどちらで生活しているか。

現在の暮らし方について、「在宅(家族と同居)」という回答は、473人、次いで「在宅(一人暮らし)」75人、福祉施設(グループホーム含む)が65人となっています。

(単位:人)

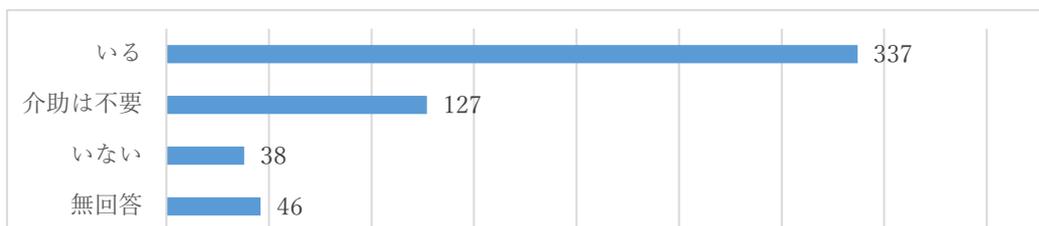


(2) 在宅(家族と同居)、在宅(一人暮らし)と答えた方への質問。

自宅での日常生活を介助してくれる人はいるか。

介助をしてくれる人が「いる」337人、「いない」38人となっています。

(単位：人)



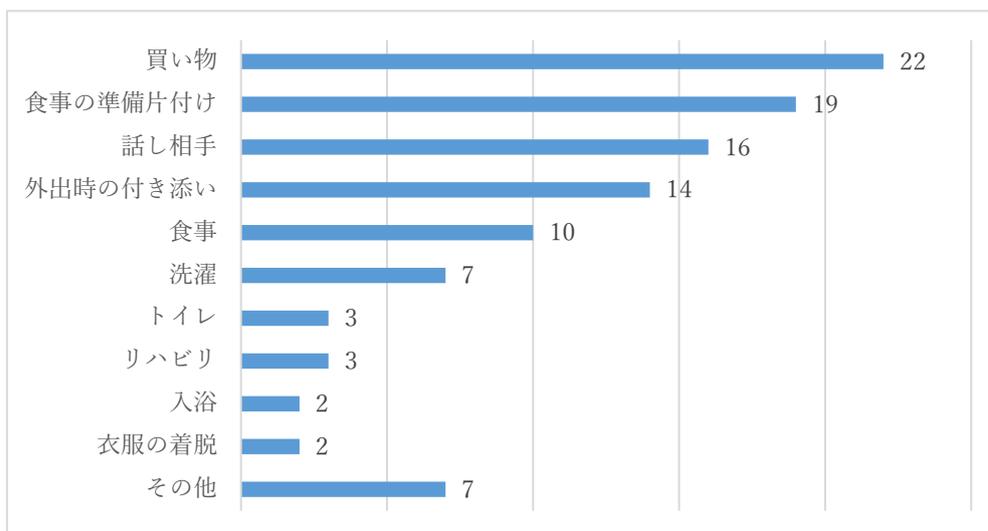
(3) 上記(2)の質問で、「いない」と答えた方への質問。

もし介助を手伝ってくれる人がいれば、どのような介助を頼みたいと思うか。

(3つ以内)

「買い物」が22人と最も多く、次いで「食事の準備片付け」19人、「話し相手」16人となっています。

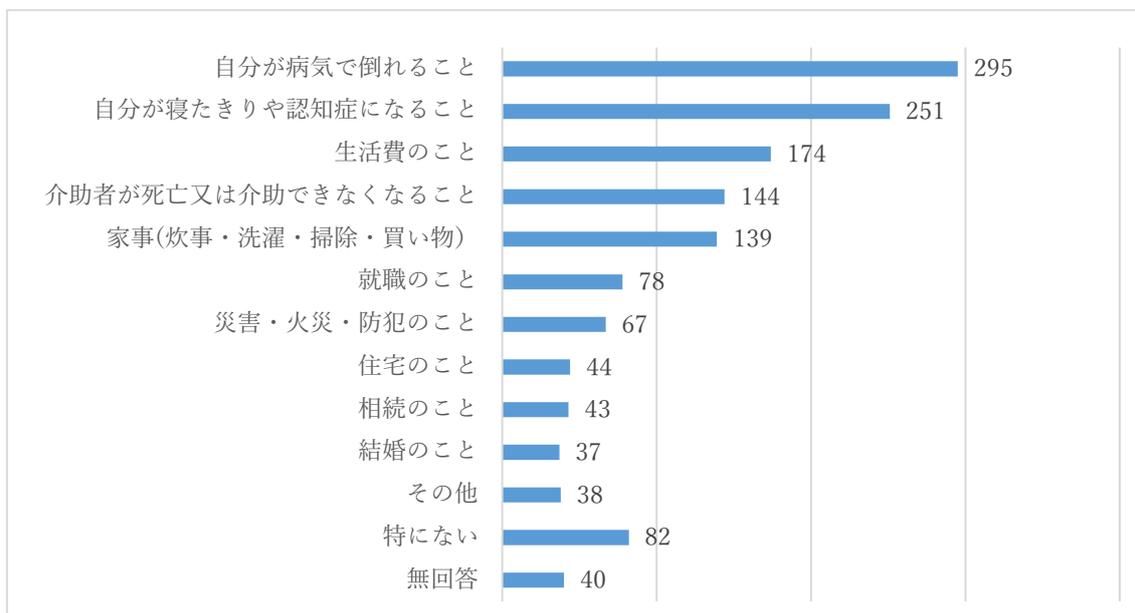
(単位：人)



(4) 今、不安に思っていることは何か。(3つ以内)

「自分が病気で倒れること」295人と最も多く、次いで「自分が寝たきりや認知症になること」251人と身体に関することが多く、「生活費のこと」174人となっています。

(単位：人)



(5) 就労について

① 現在、収入をとまなう仕事をしているか。

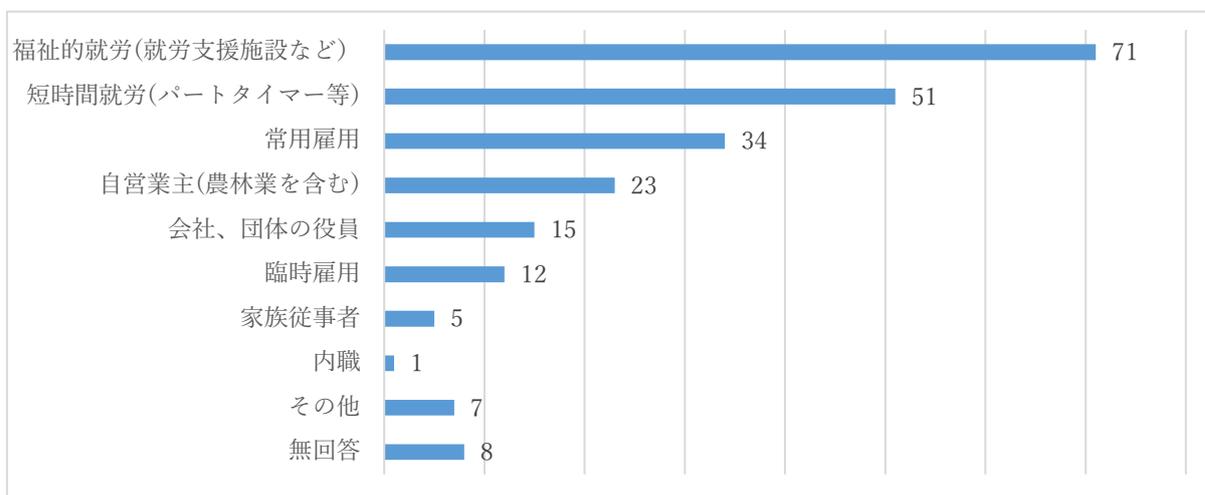
19歳から64歳までの方で264人中「している」156人、「していない」103人「無回答」5人でした。

「していない」主な理由は、「障がいのため」、「病気のため」、「病気が悪くなることが心配」と体調のことが多く、ほかには「適職がない」が理由としてありました。

② 「している」と答えた方への質問。どのような形で仕事をしているか。(複数回答)

「福祉的就労(就労支援施設等)」71人と多く、次いで「短時間就労(パートタイマー等)」51人、「常用雇用」34人となっています。

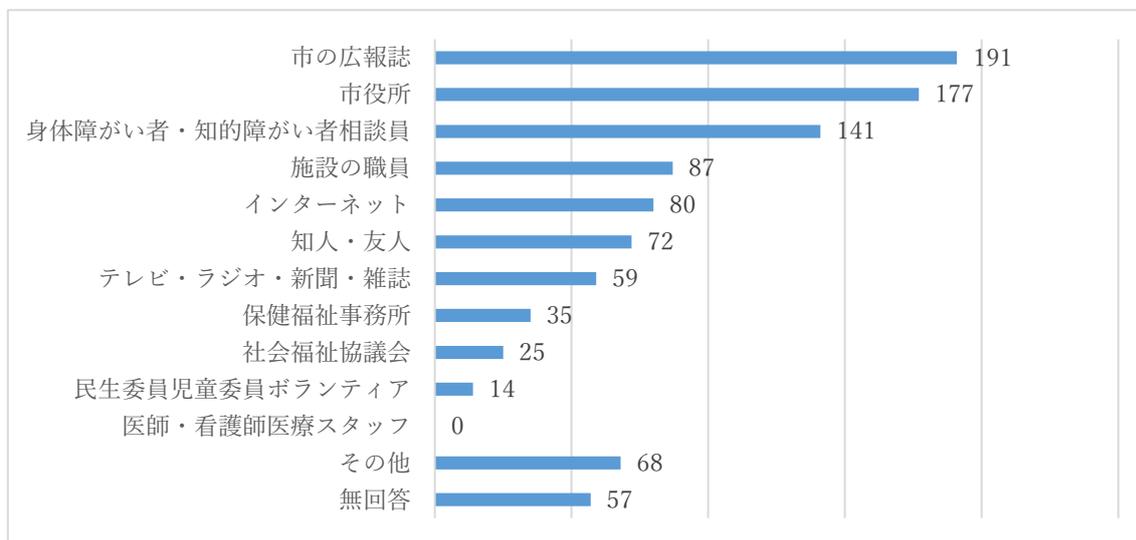
(単位：人)



(6) 障がい者のための福祉サービスについて

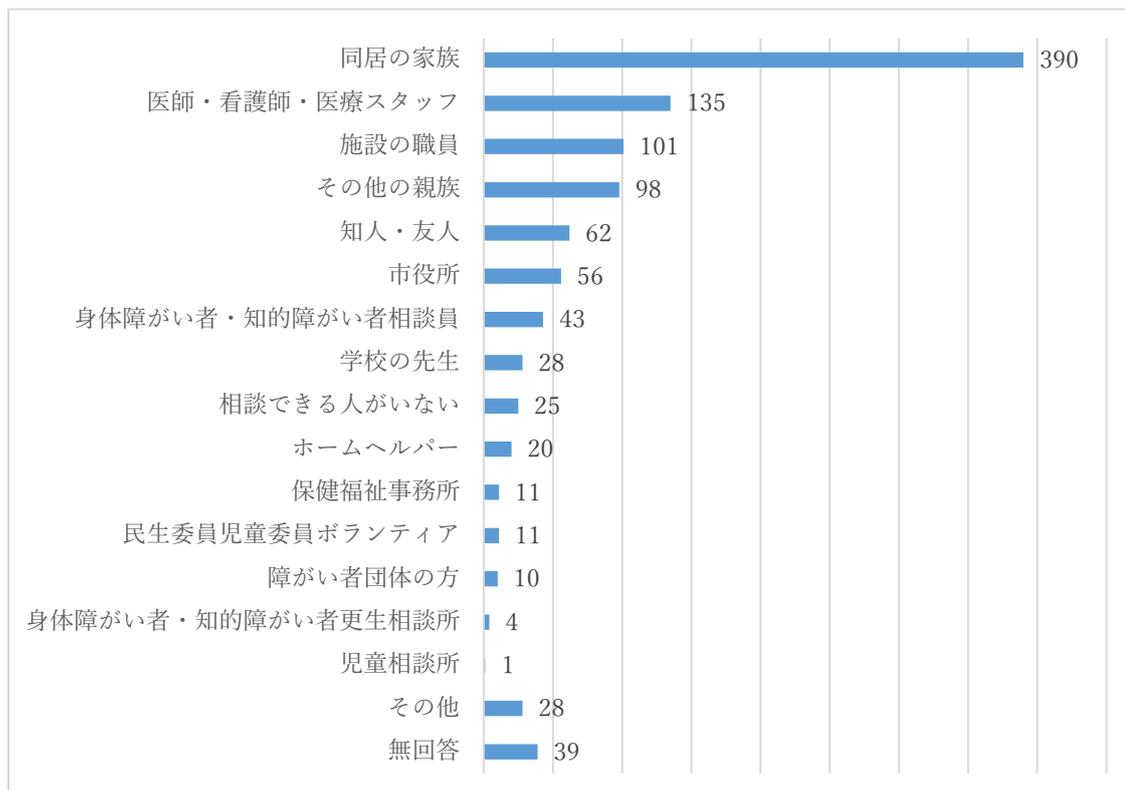
① 福祉サービスの情報を主にどこから得ているか。(3つ以内)

「市の広報誌」191人と最も多く、次いで「市役所」177人、「身体障がい者・知的障がい者相談員」141人となっています。(単位：人)



② 主に相談にのってもらっている人は誰か。(複数回答)

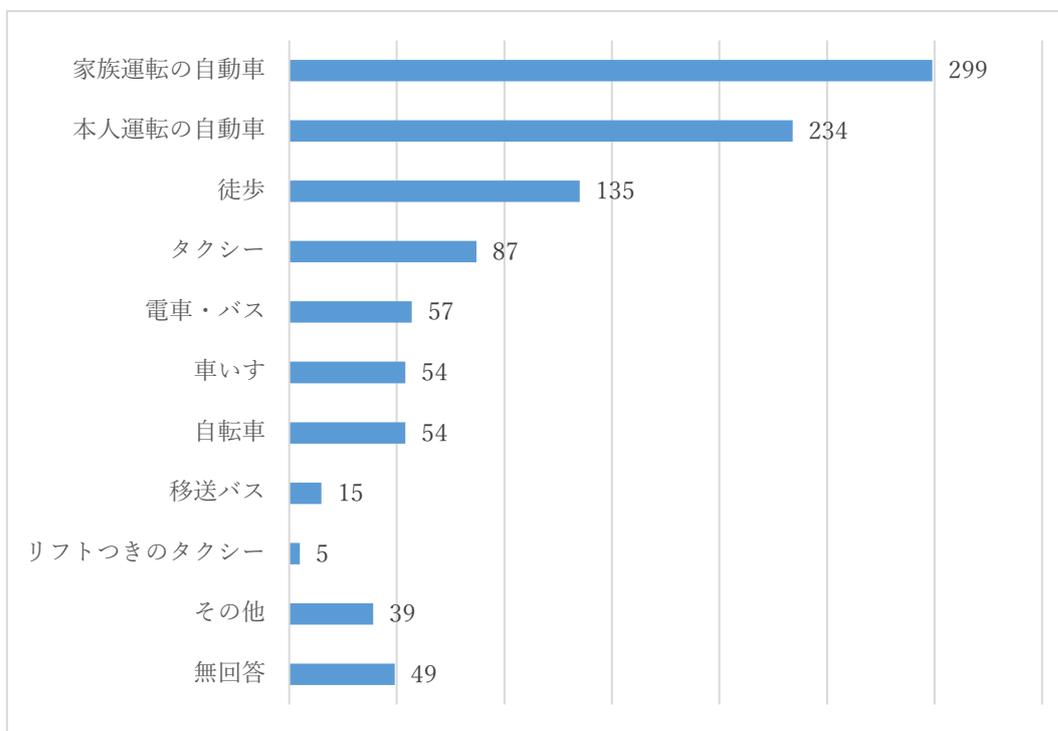
「同居の家族」390人と最も多く、次いで「医師・看護師・医療スタッフ」135人、「施設の職員」101人となっています。(単位：人)



(7) 外出について

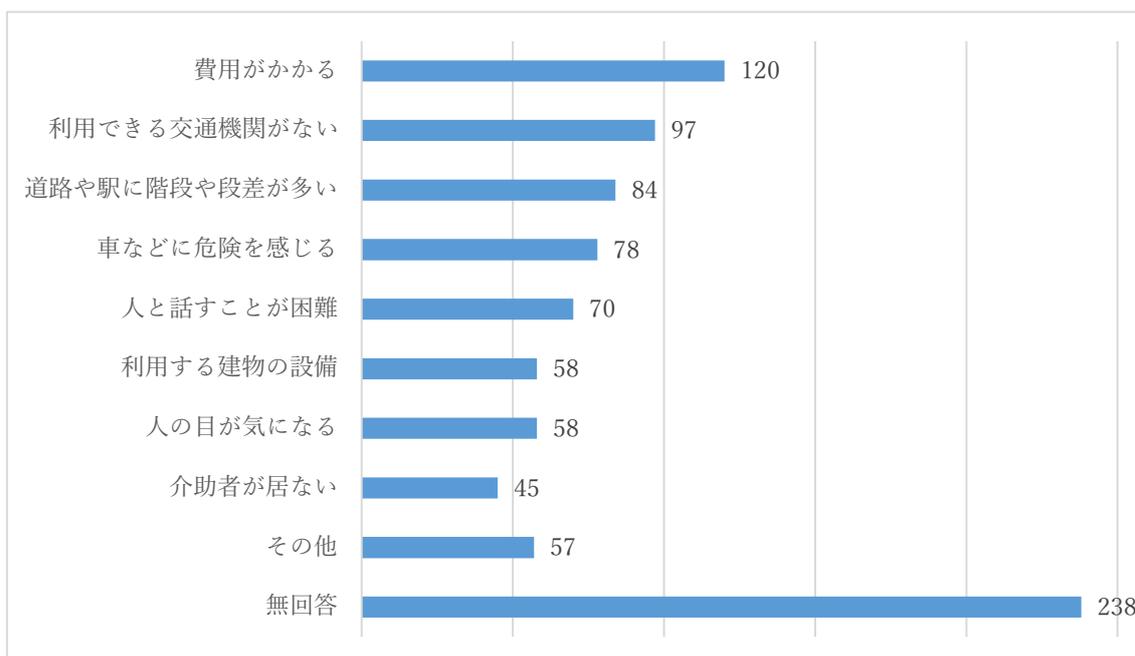
① 外出する時の主な交通手段は何か。(2つ以内)

「家族運転の自動車」299人と最も多く、次いで「本人運転の自動車」234人、「徒歩」135人、「タクシー」87人となっています。(単位：人)



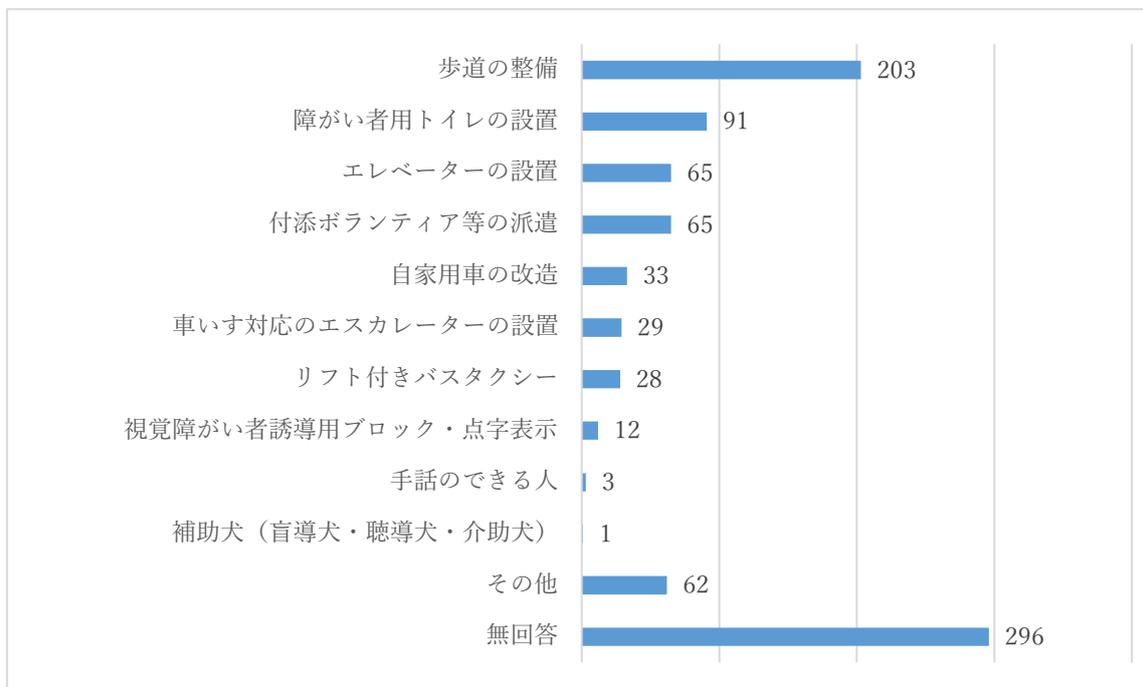
② 外出する上で、又は外出しようとする上で困ることは何か(3つ以内)

「費用がかかる」120人と最も多く、次いで「利用できる交通機関がない」97人、「道路や駅に階段や段差が多い」84人となっています。(単位：人)



③ 外出のために整備してほしいものは何か。(3つ以内)

「歩道の整備」203人と最も多く、次いで「障がい者用トイレの設置」91人、「エレベーターの設置」・「付添ボランティア等の派遣」それぞれ65人となっています。(単位：人)



(8) 文化・スポーツ活動について

① 現在、何か文化活動やスポーツ活動をしているか。

「している」と回答した方のうち、活動内容は「グラウンドゴルフ」が一番多く、ほかには「音楽(演奏・鑑賞等)」、「ダンス」等の回答がありました。

② 今後、やってみたい文化活動やスポーツ活動があるか。

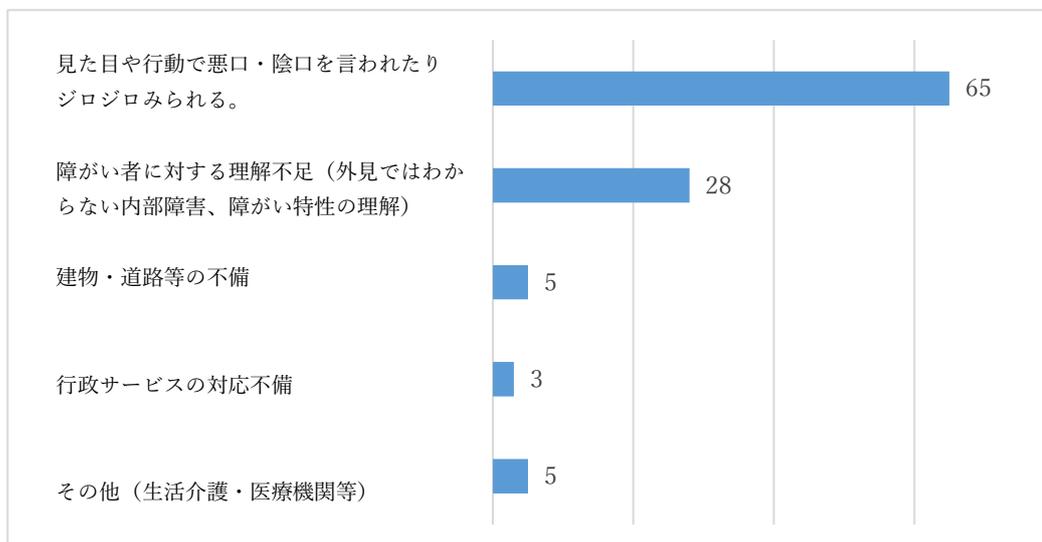
「ある」と回答した方のうち、活動内容は「グラウンドゴルフ」が多く、ほかには「音楽(演奏・鑑賞等)」、「書道・パソコン・お菓子づくり」等の回答がありました。

(9) 周囲の人々との関係について

障がいがあるために差別を受たり、いやな思いをしたことがあるか。

143 人の方が、「よくある」、「時々ある」と回答されています。そのうち 106 人の方から具体的に回答をいただいています。

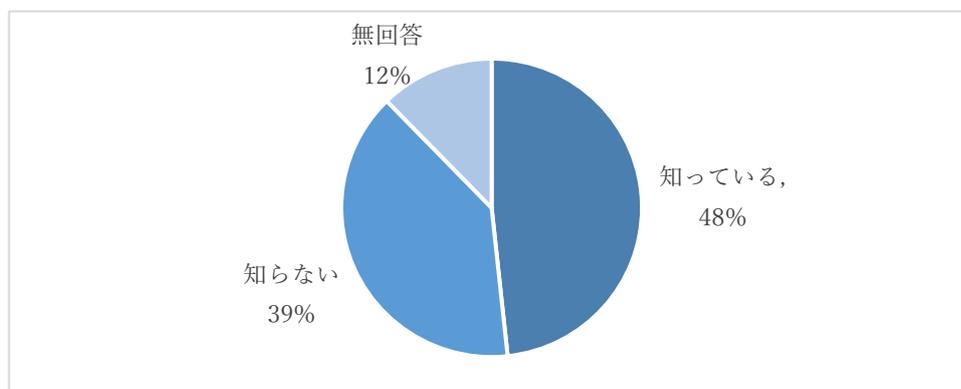
(単位：人)



(10) 災害時の備えについて

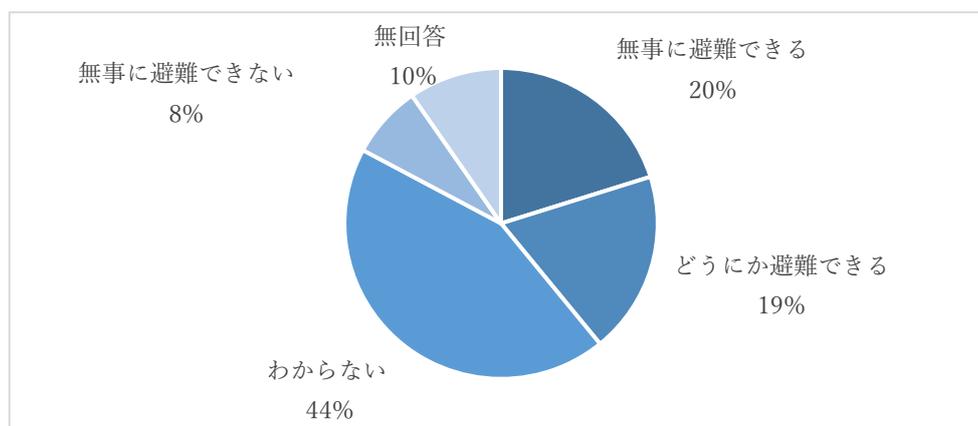
① 災害が起こった場合の避難場所、避難経路を知っているか。

「知っている」48%、「知らない」39%となっています。



② 災害が起こった場合、無事に避難できると思うか。

「わからない」44%、「無事に非難できる」20%、「どうにか避難できる」19%名、「無事に非難できない」8%となっています。



(1 1) 障がい者施策の現時点での重要度（極めて重要との回答上位5項目）

物価高騰の影響等があり所得補償、医療費の軽減、移動支援の充実等が極めて重要との回答が多くなっています。上位5項目は以下のとおりです。

- ・ 年金などの所得補償の充実
- ・ 病気にかかりやすいので医療費の軽減
- ・ 自動車燃料費、交通費の補助など、移動支援の充実
- ・ 障がい者の雇用、就業の促進
- ・ 障がいの早期発見、早期治療や在宅医療、訪問看護などの保健医療の充実

(1 2) 福祉サービスについて、現時点での利用状況（利用している場合は、利用の「充足度」）について

足りないとの回答が多かった上位5項目は、下記のとおりです。

- ・ 療養介護施設入所
- ・ 障がい児訪問サービス
- ・ ショートステイ（短期入所）
- ・ 就労移行支援、就労継続支援
- ・ 障がい児通所サービス